

EV-Grid連携・活用検討会について

2024年2月まで経済産業省で開催されていたEVグリッドワーキンググループとりまとめを受けて、民間事業者間(自動車OEM、アグリゲータ、一般送配電事業者等※1)での検討の場をスマートレジリエンスネットワークに設置し、2024年9月より2025年2月末まで5回に亘り、DERとしてEVを活用する際の条件・必要なアクションについて意見交換した。

(※1 参加委員 : トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、三菱自動車工業、エネルギーリソースアグリゲーション事業協会、関西電力送配電、東京電力パワーグリッド)

EV活用の
ユースケースの区分

- ① スマートチャージング(需要家向けエネマネ)
- ② アグリゲーション・BG運用(小売・RA向けエネマネ)
- ③ 需給運用
- ④ 系統運用(配電等系統混雑緩和(DER FLEX的な運用))

ユースケースの鍵となる
ユーザビリティ

自宅、集合住宅、法人駐車場といった場での充電の代表的なユースケースにおけるユーザビリティの確保が重要

連携すべきデータ項目
を選定中

データ連携の際
必須となる項目

データ連携の際
望ましい項目

車両側

その他

- ① 充放電可能量(kWh/kW情報)
- ② プラグの接続情報
- ③ 車両識別番号
- ④ タイムスタンプ

供給地点特定番号

- ⑤ 車両位置情報(緯度経度)

- ⑥ その他情報(運行予定)

今後の取り組み予定

データ収集の際の留意点や制度化の姿についてさらなる検討を行う。